

<金標準、IAEA 理事会のイラン非難決議を機に米国の攻撃に注意・・・>



(出所：オアシス)

米国連邦最高裁判所は、トランプ大統領の国際緊急経済権限法（IEEPA）に基づいて各国・地域に関税を課したことは大統領権限の逸脱に当たると判決を示している。またロシア中央銀行は保有の金準備を 9.3 トン売却し、2309.5 トンへ金保有を昨年 10 月以来、初めて減少させている。また中東では、米国とイランの核協議が行われているが、イランの時間稼ぎと見られる戦術で、進展の気配は示されていない。しかし米国軍は、アラビア海に空母 2 隻を要する空母打撃軍を派遣しており、攻撃の機会を狙っていることから、イランが IAEA の核査察を拒み続けており、3 月 2 日からの IAEA 理事会でイラン非難決議が採択されるとトランプ大統領は「錦の御旗」の下でイラン攻撃を正当化する事が出来る。そのため地政学的なリスクの高まりから 5000 ドルを維持する動きに思える。

そのため金標準先物も 25000 円を維持しながら目先の高値 26411 円を試す可能性は高まると思え、25000 円以下はロングポジションのエントリーが妥当に思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が切り上げており、シグナルは下げ渋っている。RCI は短期が上昇し、長期は切り下げている。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジを上回り、基調は強気へ傾いた状態に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引3,078,000円(2026年2月24日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復121,440円(2026年2月24日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話03-5540-8423(受付時間:平日8:30~17:30)証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター <https://www.nisshokyo.or.jp>